

- (4) 「検索」ボタンをクリックしてください。
「検索」ボタンをクリックすると、コンポーネントの検索を開始します。
コンポーネントの IP アドレスとともに、発見された iStorage のフローティングアドレスが一覧に表示されます。
「自動登録」が終了すると、iStorage をリモート管理できるようになります。

.....
ヒント：

- ・ iStorage、iSM クライアントの概要および関連説明書については、「iStorageManager マニュアルガイド」(IS901)をご覧ください。

第8章 vPro 搭載コンポーネントのセットアップ

8.1 セットアップの流れ

以下の手順でセットアップを行ってください。

- (1) ESM/ServerManager をインストールした管理 PC と、vPro 搭載コンポーネントを同一ネットワークに接続する。
- (2) vPro 搭載コンポーネントの iAMT をコンフィグレーションする。
- (3) ESM/ServerManager に vPro 搭載コンポーネントを登録する。

8.2 iAMT をコンフィグレーションする

vPro 搭載コンポーネントの電源 ON の後、<Ctrl+P>の入力を促すメッセージが表示されたらすぐに、<Ctrl+P>を入力してください。

iAMT のコンフィグレーション画面が表示されますので、パスワードを入力しコンフィグレーションを行ってください。

.....
ヒント：

- [illegible]

8.3 コンポーネントを登録する

8.3.1 所属グループを登録する

「1.3.2 コンポーネントが所属するグループを登録する」を参照してください。

8.3.2 コンポーネントを登録する

下記の2通りの方法があります。どちらかの操作を行ってください。

n 手動登録

vPro の IP アドレスなどの情報を直接入力して登録し、「接続チェック」を実施します。

n 自動登録

ネットワーク上に存在する、ESMPRO/ServerManager 上にまだ登録されていないコンポーネントとともに、vPro 搭載コンポーネントも検索して登録します。

8.3.2.1 手動登録

- (1) 「コンポーネント一覧」画面または「グループ」ツリーで vPro 搭載コンポーネントを所属させるグループ名をクリックしてください。
- (2) 選択したグループの「グループ情報」タブの「コンポーネントの追加」から「手動登録」-「通常管理」をクリックしてください。
- (3) 「手動登録」画面で以下の項目を入力してください。

項目名	設定値
コンポーネント名	ESMPRO/ServerManager 上で管理するためのコンポーネントの名前です。他のコンポーネントの名前と重ならない名前をつけてください。空白文字を含む名前は入力できません。また、大文字と小文字は区別されます。
別名	コンポーネントの別名を指定できます。空白文字を含む名前は入力できません。また、大文字と小文字は区別されます。
所属グループ	コンポーネントを追加する先のグループ名を選択してください。
接続形態	LAN を選択してください。
共通設定	
OS IP アドレス	コンポーネントの OS IP アドレスを入力してください。
SNMP (ESMPRO/ServerAgent)/ WS-Man	
管理	コンポーネントのシステム管理機能を使用したい場合は「登録」を選択してください。
管理対象	<p>管理対象の管理プロトコルを選択して下さい。</p> <p>「SNMP」 1</p> <p>管理対象に ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合。</p> <p>「WS-Man」 1, 2</p> <p>管理対象に ESMPRO/ServerAgentService がインストールされている場合。</p>
SNMP コミュニティ名(取得用)	<p>管理対象に「SNMP」を選択した時のみ表示されます。</p> <p>管理対象コンポーネントで稼動している SNMP エージェントに設定された SNMP コミュニティ名を入力します。SNMP による情報取得、設定、監視などを行う場合は、この値を設定しておく必要があります。</p>
SNMP コミュニティ名(設定用)	<p>管理対象に「SNMP」を選択した時のみ表示されます。</p> <p>SNMP を使ってリモートのホストに対して設定を行う場合に、取得用の SNMP コミュニティ名と異なる SNMP コミュニティ名を使用する必要がある場合は、このフィールドに設定用の SNMP コミュニティ名を英数字で指定してください。もし、このフィールドが設定されていない場合は、取得用の SNMP コミュニティ名で設定を試みます。</p>

ユーザ名	管理対象に「WS-Man」を選択した時のみ表示されます。 WS-Man によるシステム管理を実施する場合に使用するユーザー名及びパスワードを入力します。
パスワード	「Windows 版 ESM/ServerAgentService の場合」 Window のシステム管理者権限を持つローカルのユーザー名及びパスワードを入力してください。ActiveDirectory 上に作成したユーザーアカウントを使用することは出来ません。 「Linux 版 ESM/ServerAgentService の場合」 Linux の root ユーザー/パスワードを入力してください。
通信プロトコル	管理対象に「WS-Man」を選択した時のみ表示されます。 WS-Man 管理で使用する通信のプロトコルを選択します。
ポート番号	管理対象に「WS-Man」を選択した時のみ表示されます。 WS-Man 管理で使用するポートを入力します。 3
RAID システム管理機能	
管理	RAID システムを管理する場合は、「登録」を選択してください。
ExpressUpdate 機能	
ExpressUpdate Agent 経由のアップデート	ExpressUpdate を使用してコンポーネントを管理する場合は、「登録」を選択してください。
マネージメントコントローラ経由のアップデート	「未登録」を選択してください。
"BMC (EXPRESSSCOPE エンジン)"/"iLO" / "BMC (その他)"/"vPro" (Common)	
管理	「登録」を選択してください。
管理対象	「vPro」を選択してください。
ユーザ名	8.2 章「iAMT をコンフィグレーションする」で設定した管理対象コンポーネントの vPro と通信するためのユーザー名及びパスワードを入力してください。デフォルトのユーザー名及びパスワードは共に「admin」です。
パスワード	
"BMC (EXPRESSSCOPE エンジン)"/"iLO" / "BMC (その他)"/"vPro" (LAN)	
IP アドレス 1	コンポーネントの iAMT コンフィグレーションで設定した LAN の IP アドレスを指定してください。 iAMT コンフィグレーションで DHCP を有効に設定した場合は、OS の IP アドレスを指定してください。
サブネットマスク 1	4 コンポーネントの iAMT コンフィグレーションで設定した LAN のサブネットマスクを指定してください。

.....
チェック：

- 1: Linux 版 ESMPRO/ServerManager の場合、SNMP による ESMPRO/ServerAgent がインストールされたコンポーネントの管理を行うことが出来ません。
この機能は Windows 版 ESMPRO/ServerManager でのみ提供されます。

チェック：

- 2: WS-Man 通信を使用する場合、以下のような場合は「1.3.1 環境設定を行う」を参考に ESM/PRO/ServerManager で自己署名を許容する必要があります。

- ・管理対象側で ESMPRO/ServerAgentService と ESMPRO/ServerManager との通信に HTTPS を使用する設定を行っている場合でかつ、自己署名を使用している場合。

8.3.2.2 自動登録

- (1) 「コンポーネント一覧」画面または「グループ」ツリーで vPro 搭載コンポーネントを所属させるグループ名をクリックしてください。
- (2) 選択したグループの「グループ情報」タブで「コンポーネントの追加」 - 「自動登録」をクリックしてください。
- (3) 「自動登録」画面で、vPro 搭載コンポーネントを検索するための設定を行ってください。

[illegible]

[illegible]

.....
チェック：

- 1: Linux 版 ESMPRO/ServerManager の場合、SNMP による ESMPRO/ServerAgent がインストールされたコンポーネントの管理を行うことが出来ません。
この機能は Windows 版 ESMPRO/ServerManager でのみ提供されます。

.....
チェック

- 2: Web ブラウザ上の【環境設定】 【自動登録設定】の画面を開くことで、WS-Man 検索、BMC (EXPRESSSCOPE エンジン) 検索、iLO 検索、BMC (その他) 検索、及び Intel(R) vPro(TM) Technology 検索で使用するユーザ/パスワードもしくは認証キーを、自動登録画面で入力する情報とは別に予め 5 つまで登録することが出来ます。ここで入力した情報は、自動登録を実施するたびにコンポーネント検索情報として使用されます。詳細は 1.3.3.3 自動登録設定機能をご確認ください。

- (4) 「検索」ボタンをクリックしてください。
「検索」ボタンをクリックすると、コンポーネントの検索を開始します。
- (5) 自動登録が終了すると、登録したコンポーネントの一覧を表示します。
自動登録終了後、vPro 搭載コンポーネントをリモート管理できるようになります。

10.4 コンポーネントを登録する

10.4.1 環境設定を行う。

以下に ESXi サーバを管理するために必要な WS-Man 通信を有効にする手順を示します。

- (1)「環境設定」-「ネットワーク」画面で、「WS-Man 通信」の項目を、自己署名証明を「許容する」に設定してください。

[illegible]

.....
チェック：

- VMware ESXi5.5 装置を ESM/ServerManager のシステム管理機能で登録する場合の注意事項があります。以下の URL を参照してください。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140102220>

- (4) 「追加」ボタンをクリックしてください。
- (5) コンポーネントの「設定」タブの「接続設定」画面で「接続チェック」ボタンをクリックしてください。

「接続チェック」ボタンをクリックすると、ESMPRO/ServerManager が「接続チェック」を行って、リモート管理のために必要な情報を VMware ESXi5/6 サーバから収集します。

「接続チェック」が正常終了すると、VMware ESXi5/6 サーバをリモート管理できるようになります。

検出状態	説明
検出	管理の欄に表示されている機能を検出できた状態です。 該当機能を使用できます。
未検出	管理の欄に表示されている機能を検出できなかった状態です。 該当機能を使用できません。 再度入力情報を確認し、入力した情報に誤りがないか確認して下さい。

[illegible]

.....
チェック：

- 1: ESM/ServerManager がインストールされている OS が Linux の場合、SNMP によるシステム管理を利用することができません。

.....
チェック：

- 2:VMware ESXi5/6 サーバを管理する場合、Web ブラウザ上から「環境設定」-「ネットワーク」画面を開き、「WS-Man 通信」の項目で自己署名証明を「許容する」に設定する必要があります。詳細は「10.4.1 環境設定を行う。」を参照してください。

.....
チェック

- [illegible]

.....
チェック

- [illegible]

上記以外のユーザーアカウントを使用して iLO の管理を行う場合、iLO に対する一部の機能が利用できない可能性があります。

第11章 アラート受信のみのコンポーネントのセットアップ

ESMPRO/ServerManager ver.6.02 以降では、SNMP Trap を通知できるコンポーネントを登録することで登録したコンポーネントから SNMP Trap を受信、管理することが出来ます。

この章では、SNMP Trap を通知することができるコンポーネントを管理するために推奨するセットアップ手順を説明します。

11.1 セットアップの流れ

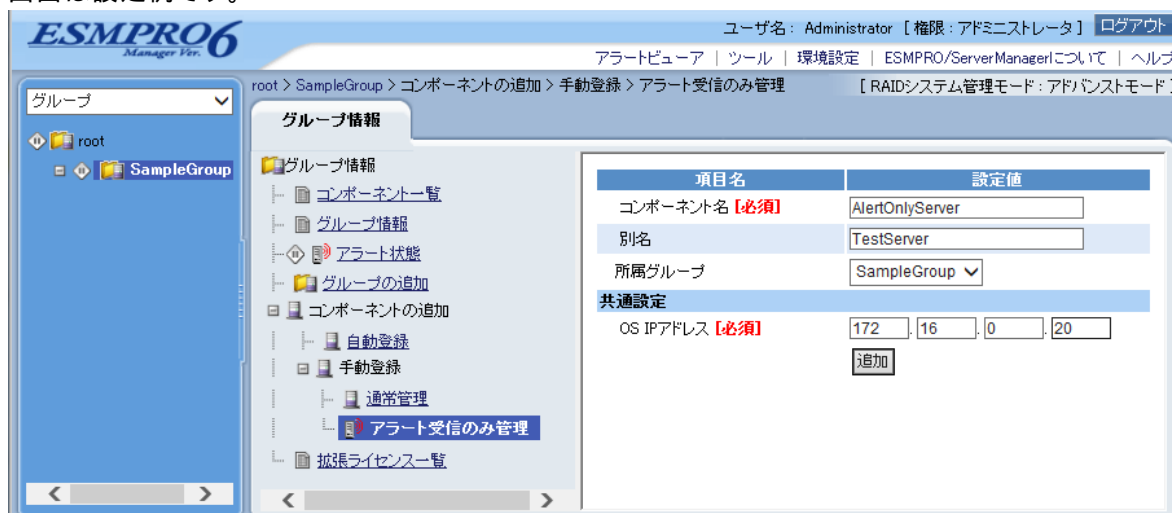
以下の手順でセットアップを行って下さい。

- (1) ESMRPO/ServerManager をインストールした管理 PC と SNMPTrap を通知できるコンポーネントを同一ネットワークに接続する。
- (2) SNMP Trap を通知するコンポーネント上で SNMPTrap を通知するために必要なセットアップを実施する。
セットアップ手順については、コンポーネントごとに異なるため、各コンポーネントの手順書をご参照ください。
- (3) ESMPRO/ServerManager にコンポーネントを登録する。

- [illegible]

項目名	設定値
コンポーネント名	ESMPRO/ServerManager 上で管理するためのコンポーネントの名前です。他のコンポーネントの名前と重ならない名前をつけてください。空白文字を含む名前は入力できません。また、大文字と小文字は区別されます。
別名	コンポーネントの別名を指定できます。空白文字を含む名前は入力できません。また、大文字と小文字は区別!されます。
所属グループ	コンポーネントを追加する先のグループ名を選択してください。
共通設定	
OS IP アドレス	コンポーネントの OS IP アドレスを入力してください。

画面は設定例です。



- (4) 「追加」ボタンをクリックしてください。追加が完了すると、追加先に選択したグループ配下にコンポーネントが追加されます。



第13章 ESMPRO/ServerManager からコンポーネント及びグループを削除する

ESMPRO/ServerManager からコンポーネントを削除する手順を示します。

13.1 コンポーネントをグループから削除する

- (1) 削除したいコンポーネントが所属しているグループ名をクリックしてください。



- [illegible]



(3) 「削除」をクリックしてください。



削除が成功すると、削除したグループ配下に登録されていたコンポーネント、及び子グループもすべて ESMPRO/ServerManager の管理対象から削除されます。

ヒント：

- [illegible]

付録 A iStorage NS シリーズなどコンソールレス装置のリモートコンソールとして使用する場合の手順

コンポーネントが iStorage シリーズやアプライアンスサーバなどの、ローカルコンソールを持たない装置の場合は、ESMPRO/ServerManager のリモートコンソールを使用して、コンポーネント上の BIOS の設定や DOS ツールを使ったセットアップを行うことができます。

ここではリモートコンソールを使用するための最低限の手順を示します。

- 1 ESM/ServerManager のインストールと環境設定を行う。
- 2 コンポーネントの BMC をコンフィグレーションする。
- 3 ESM/ServerManager にコンポーネントを登録する。
- 4 リモートコンソールを開く

1 ESMPRO/ServerManager のインストールと環境設定を行う。

- [illegible]

2 コンポーネントの BMC をコンフィグレーションする。

- [illegible]

[illegible]

- [illegible]

[illegible]

- [illegible]

[illegible]

- [illegible]

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

- [illegible]

B.2 BMC が管理 LAN 用ポートを使用する装置の場合

BMC が管理 LAN 用ポートを利用するコンポーネント上で、ESMRPO/ServerAgent Extension ver.1.xx が Teaming 設定をした LAN を利用する場合、以下の手順で設定を行ってください。コンポーネントの OS が Windows の場合も Linux の場合も手順は共通です。

- 1 ESMRPO/ServerAgent Extension 上で ESMRPO/ServerAgent Extension が利用する IP アドレスを設定する。
- 2 ESMRPO/ServerManager 上にコンポーネントを登録する。

1 ESMRPO/ServerAgent Extension 上で ESMRPO/ServerAgent Extension ver.1.xx が利用する IP アドレスを設定する。

- (1) ESMRPO/ServerAgent Extension の設定画面の「Agent IP アドレスの選択」で、Teaming に使用する IP アドレスを選択して設定してください。

2 ESMRPO/ServerManager 上にコンポーネントを登録する。

- (1) 2.3「ESMPRO/ServerManager にコンポーネントを登録する」に従って、コンポーネントを登録してください。

.....

チェック：

- ・ 以前に ESMRPO/ServerManager にコンポーネントを登録して接続チェックを実施している場合も、「2 ESMRPO/ServerAgent Extension 上で ESMRPO/ServerAgent Extension が利用する IP アドレスを設定する」を実行後、必ず接続チェックを実施してください。
-

付録 C WS-Man 管理時のポート番号について

WS-Man 管理時に使用されるポートは以下のように決定されます。

【管理対象が ESMPRO/ServerAgentService の場合】

管理対象となるコンポーネントの Windows リモート管理 (WinRM) により使用される既定値が異なります。

WinRM 2.0 の場合	既定値として HTTP:5985、 HTTPS:5986 が使用されます。
WinRM 1.1 の場合	既定値として HTTP:80、 HTTPS:443 が使用されます。

管理対象の WinRM の更新を行っていない場合、各 OS により以下の WinRM が使用されています。

- ・ Windows Server 2008 及び Windows Vista WinRM 1.1
- ・ Windows Server 2008R2 以降、及び Windows7 以降の OS WinRM 2.0

【管理対象が ESXi5/6 サーバの場合】

HTTP 接続は使用することが出来ません。

HTTPS 接続 (ポート番号 : 443) を使用してください。

付録 D 管理対象コンポーネント一覧

BMC 搭載コンポーネント

ESMPRO/ServerManager は BMC を搭載している各管理対象コンポーネントに対して、以下の機能を実行できます。

- | リモートコンソール
- | 情報収集
- | 電源制御
- | コンポーネント監視
- | リモートバッチ
- | コマンドラインからの操作

但し、管理対象コンポーネントの種類により、一部の機能を利用できない場合があります。下記の一覧でご確認ください。

また、製品毎の動作制限については製品添付のユーザーズガイドもご覧ください。

最新の情報は以下の URL でご確認ください。

<http://jpn.nec.com/esmsm/>

<一覧表の見方>

製品名：	BMC を搭載している ESMPRO/ServerManager のコンポーネントの製品名を示します。同じ製品名で、サポートしている機能が異なる場合は N 型番を付記しています。	
BMC：	「標準搭載」：	BMC が標準搭載されています。
	「標準搭載(EE)」：	EXPRESSSCOPE エンジン、または EXPRESSSCOPE エンジン 2 が搭載されています。
	「標準搭載 (EE3)」：	EXPRESSSCOPE エンジン 3 が搭載されています。

n Express5800/スタンダードラックサーバ/スタンダードタワーサーバ

製品名	BMC	標準 LAN2 対応	管理 LAN 用ポート	リモート コンソ ール	スケジュー ル運転	電源オブ ション 設定	SOL 対応	電力測 定	ECO 設定	強制 ネットワー ク ブート	注意事項
110Ek	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
110Ei	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
110GR-1d	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)
110Rb-1h	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
110Rc-1h	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
110Rh-1	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)
110Ri-1	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)
120Eh	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
120Ei	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
120Gc	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
120Gd	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
120Li	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(a),2-(e)
120Lj	標準搭載 (EE)	—							—		2-(a),2-(e)
120Rg-1	標準搭載 (EE)	—							—		2-(e)
120Rh-1	標準搭載 (EE)	—							—		2-(e)
120Ri-2	標準搭載 (EE)	—							—		2-(e)
120Rj-2	標準搭載 (EE)	—							—		2-(e)
140Rf-4	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)

製品名	BMC	標準 LAN2 対応	管理 LAN 用ポート	リモート コンソール	スケジュール 運転	電源オプション 設定	SOL 対応	電力測定	ECO設定	強制 ネットワーク ブート	注意事項
R140a-4	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)
R140b-4	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)
E120d-1	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b)
E120d-M	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b)
E120e-M	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b)
E120f-M	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b)
E120g-M	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b)
T110a	標準搭載 (EE)	—						—	—		2-(e)
T110b	標準搭載 (EE)	—									2-(e)
T110c	標準搭載 (EE)	—									2-(e)
T110d	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T110e-M	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T110f-E	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T110f-S	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T110h	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T110h-S	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T120a-E	標準搭載 (EE)	—									2-(e)
T120a-M	標準搭載 (EE)	—									2-(e)
T120b-M	標準搭載 (EE)	—									2-(e)
T120d	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T120e	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T120f	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)
T120g	標準搭載 (EE3)	—									1-(a), 1-(b), 2-(a)

付録 E サンプルスクリプトによる ESMPRO/ServerManager REST API の実行方法

ESMPRO/ServerManager で ExpEther を管理するためには、ESMPRO/ServerManager に ExpEther Manager を登録する必要があります。ESMPRO/ServerManager の EEM の登録 API を実行することで ExpEther Manager を登録することができます。

また、ESMPRO/ServerManager に登録した ExpEther Manager の確認や削除も同様に ESMPRO/ServerManager の REST API を実行することで実現できます。

ここでは ExpEther を管理するための以下の 3 つの REST API を実行する Ruby のサンプルスクリプトについて記載します。

- ・ EEM の登録 API
- ・ EEM の削除 API
- ・ EEM の一覧取得 API

準備

サンプルスクリプトには以下が必要になります。

- ・ Ruby

サンプルスクリプトの編集

スクリプトには、ESMPRO/ServerManager へアクセスするための情報や各 API のリクエストデータをパラメータとして記載しています。そのため、あらかじめ使用する環境に合わせて、これらのパラメータを編集する必要があります。

各スクリプトファイルと編集する必要のあるパラメータを下記に示します。

(1) search_eem.rb

EEM の登録 API を実行するスクリプトです。

使用する環境に合わせて以下のパラメータを修正してください。

- HOST

ESMPRO/ServerManager のホスト名または IP アドレスを記載してください。

例) ESMPRO/ServerManager の IP アドレスが「192.168.1.1」の場合

HOST="192.168.1.1"

ESMPRO/ServerManager と同じホストで実行する場合

HOST="localhost"

- PORT

ESMPRO/ServerManager が使用するポート番号を記載してください。

ESMPRO/ServerManager のポート番号の初期値は「21112」です。

例) PORT=21112

- login_account

ESMPRO/ServerManager にログインするためのアカウント情報を記載して下さい。

例) login_account = {'user'=>'Administrator', 'password'=>'Password'}

- request_data

EEM の登録 API のリクエストを記載してください。

リクエストの詳細は「ESMPRO/ServerManager Ver.6 RESTful API リファレンス」の「EEM の登録」を参照してください。

(2) delete_eem.rb

EEM の削除 API を実行するスクリプトです。

使用する環境に合わせて以下のパラメータを修正してください。

- HOST

EEM の登録 API と同様です。

- PORT

EEM の登録 API と同様です。

- login_account

EEM の登録 API と同様です。

- name

削除したい EEM の登録名を記載してください。

